

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900173		
法人名	一関市病院事業		
事業所名	グループホーム やまばと		
所在地	岩手県一関市藤沢町藤沢字町裏56番地		
自己評価作成日	平成28年10月25日	評価結果市町村受理日	平成29年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kari=true&Ji_gyosyoCd=0390900173-00&Pr_efCd=03&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

かかりつけ医が近くにある関連病院であり、多様な相談・治療が受けられる。また、訪問看護2回/週の訪問、フットケア専門士が来所し対応していただいている。看取り対応も可能ですし、要介護が重度になった場合でも、併設されている特養からの協力をいただくことができる。また、デイサービスで行われている地域交流へも毎月参加し、昔ながらのおやつを地域の方々と一緒に作ったり、制作活動を楽しむなどの楽しさも味わえている。緊急時や災害時は近隣の協力や母体である特養の協力をいただくことができる。光栄荘やデイサービスの利用者の方々や親しい友人や知り合いに会い、会話を楽しむことができる。グループホームやまばとの所内において、地域の方々が集まりお茶会を開催している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域の中心商店街に近接し、住宅に囲まれ、市の病院事業として設置した病院、特別養護老人ホーム、デイサービスセンターなどの医療、福祉、介護関係施設の集約した場所に立地し、これらの介護関連施設と連携のもとに、充実した利用者へのサービスの提供がなされている。また、地域の住民や児童の施設訪問、地域活動への参加に加え、ひとり歩きしている利用者の通報や事業所の避難訓練への協力、催事への参加など、地域との交流が促進され、地域と一体となった事業所運営がなされ、安心、安全な生活が営まれている。運営推進会議は、市や地域の関係者の出席のほか、事業の実施時期に合わせ、消防署員や警察官をゲストとして招き、助言や指導を業務に活用するなど、より効率的で効果的な運営に取り組んでいる。事業所の理念の実践を図るため、年度初めに実施計画の中に目標を定め、職員に徹底するとともに、日頃の業務の中で、職員間での情報の共有と意見交換などにより、コミュニケーションの充実を図り、職員による業務改善の提案を取り上げ、利用者本意の介護サービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型施設としてグループホームの在り方や役割りについて、理念を踏まえ、常に意識するよう目の届くところに掲示し実践につなげている。	運営理念は、開設時に定めたものである。その具体化を図るため、年度当初に職員会議で話し合い、その年の目標を定め、その実現化の状況を毎月職員会議で確認し、今後の取り組みの方策等を共有し、日々の業務に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される諸行事への参加や、自治会のお茶会の際は、当施設を開催場所として依頼し、近隣住民とのつながりを大切にしている。又、毎月開催されるサービスの地域交流会へ参加し地域の方々と交流を持っている。	地域の文化祭への作品の出展や、各種行事の見学など出向き参加しているほか、事業所の夕涼み会、運動会、芋煮会などに地域の住民の多数の参加を得るなど交流を促進している。さらに、利用者のひとり歩きの連絡や外出の際の声かけのほか、自治会行事への会場の提供など、地域との連携にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事・運営推進会議時には、近隣の方々多数の参加があり交流を深めていく中で、認知症という症状や実践している対応方法、色々な事例を通し、在宅介護に役立つ事などをお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議委員の方々(民政児童委員含み)の他、消防分署や駐在所、小学校校長、幼稚園園長さんへ出席依頼し、取り組み状況について報告し、ご意見等をいただいております。そこから園児・児童との交流を深める機会が増えてきている。	運営推進会議には、市や関係者の出席のほか、事業の実施に合わせ、小学校長、消防署員、警察官などの参加を得て、提案や助言、指導内容を業務に反映させている。また、日々の業務については、委員の意見、提言などを詳細な議事録に作成し、職員間で回覧・共有し、業務の改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	一関市病院事業のグループホームであり、運営推進会議メンバーの中に一関市広域行政組合より推薦された保険福祉課の職員が出席して下さり、施設内のケアサービスをご理解いただき、情報交換を行っている。また、社会福祉協議会藤沢支部支部長も毎週来所され、情報交換を行っている。	運営推進会議に市の担当者が出席し、助言・指導を得ているほか、介護認定の申請や住所変更など、家族の依頼を受けて、市に出かけている。また、市や保健所が開催する研修会や説明会に出席し、知識や情報を得ている。特に、市社協との情報交換は毎週実施し、円滑な業務運営に資している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	19時から7時まで施錠している。その他は、玄関や非常口にチャイムを設置し出入りが自由にできる。常に外に出たい利用者の方については、付き添い行きたいところへ納得がいくまで同行し対応している。	身体拘束に関する会議に出席するほか、関係機関からの通知や新聞の情報を、職員に回覧し、情報を共有している。玄関は、夜間に施錠する以外は開放し、利用者が自由に外出できる状況となっている。また、事業所の安全対策・身体拘束委員会で、留意事項や対策を提案し、スピーチロックなどに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞記事や本に掲載している虐待防止に関連する内容を、グループホーム会議などで情報伝達し意識づけ、話しあう機会をもっている。また、入浴や着替えの際は小さな傷やあざも見逃さないよう注意深く観察し、常に職員同士のコミュニケーションを持ち、話しやすい環境づくりに配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体である特別養護老人ホーム光栄荘において、職員やご家族様へ専門家より成年後見制度の説明会行われた。グループホームの近隣に在住しており、必要時は関係者と話し合い活用できるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より、入所時、退所時、改定時の都度ご家族様へ説明を行い、契約書にて同意をいただいている。また、不安や疑問点の確認を行い、必要に応じて説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時は利用者の出席を依頼し要望や意見を表出できるようにしている。また、普段の生活の場面や近隣の方々が来所された際は、生活や食事の満足度の感想を述べていただくようにしている。ご家族様へアンケートを依頼し改善点を職員間で共有している。	利用者ごとの担当職員を定め、日々の生活の中で利用者の意向を把握するとともに、職員会議で取り上げ、話し合い、より良いサービスの提供につなげるほか、家族へ毎月広報紙の送付と共に、担当者の一口メモを同封し、家族の要望等を聞いている。更に、遠隔地にいる家族などには、電話照会し、要望や意見などを得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回のケア会議や月に1回行われるグループホーム会議時は意見や要望を話していただき、問題は小さな時に解決できるよう努めている。又、会話が苦手な職員に対してはこちらから話しかけてアプローチしていくことを心がけている。	ケア会議やグループホーム会議を開催し、利用者ごとの生活状況や課題を検討し、今後の取り組み方策を話し合い、利用者へのより良いサービスの提供に努めている。職員の話しやすい雰囲気作りと声かけを行い、意見・要望を聞き、業務に反映させている。資格取得者へ手当を支給し、勤労意欲が高まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者主体の生活を優先した上で、勤務時間内に業務が終了できるよう、常に業務改善や工夫を含めて話あいを重ねている。資格手当の支給、遅番・夜勤は30分の超勤で業務を遂行している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一関市病院事業で開催される研修会や事業所内で行われる研修会(リスクマネジメント)等へ参加している。又、グループホーム会議において、個々に応じた認知症ケアの質の向上を図る為勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町のグループホームへは、年に一度に大きな行事へ参加ご案内をさせていただき交流を図っている。外部で行われる研修会や視察研修は様々は情報交換の場となり、サービスの質の向上につながっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様、居宅ケアマネ、施設ケアマネより情報を収集し状態把握に努め、不安や混乱が増大しないよう 声に発しない心情をくみ取ることができるよう関わりを大切に、寄り添い、少しずつ良好な関係をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、施設訪問・居宅訪問を行い本人や家族の想いをうかがう。多くの情報を収集することで、ご本人にとって、安心・安全な生活支援が提供できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のご本人や家族の悩みを受け止め、声にならない想いや真のニーズを引き出せるように関わり、現在何が必要かを判断し、心情に応じた対応を心がけている。居宅ケアマネ・行政などと連携を図り職種間の連携を図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護してあげる」「してあげている」という意識をなくすよう、日常において声がけや対応方法、記録の書き方についてなど、お互い注意し合い、人として、利用者も職員も同じ人間として尊重しあい、認め合い、支え合い、お互い様の関係で共に生活していることを常に意識し共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望・家族に会いたいと強く希望される利用者について、本人の気持ちを受容するとともに、面会をお願いし、両者の気持ちが少しでもすりあうように、とりもっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若く生き生きと仕事をしていた頃、一緒に働いた友人が現在デイサービスを利用しており、デイにおいて帰宅願望が強くなったとき、隣接しているグループホームの友人に面会に来て会っている。又、利用者の親戚が近隣に住んでおり気にかけて面会にきてくれる。	デイサービスの利用者や特養の入居者などを訪問し、昔馴染みの方との交流をしているほか、地域の神社のお祭り見学やドライブの際に自宅周辺を走行している。また、美容については、昔馴染みの美容師の来所に対応している。墓参は家族の訪問に合わせて実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの喜び、不快な事、利用者同士の相性を知り、9人それぞれが孤立しないように、同時に好きなことをできる環境づくりに配慮している。タイミングが悪かったり、本人のその時の心情に合わせた方法など、関わり方を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をした場合は面会に伺い、状態把握に努めている。退院の見込みがなくなり退所となった場合においても、面会やご家族様への声がけ、葬儀へ弔電を送っている。又同事業所の特養へ長期入所となった場合においては、行事や訪問等を通して交流を持ち、職員へ情報提供を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族より昔の話を聞いたり、性格をも含め、昔の様子と現在の状況を重ね合わせ、話しあいを持ち、その人らしさが尊重できるよう努めている。どのような1日を過ごしたいか、どこに行きたいか、何が食べたいかを常に伺い意向に添って対応している。	家族の意向は、来訪時に聞き取るほか、日々の生活の中で、顔つきや仕草等で、本人の意向を把握のうえ、利用者ごとの役割表を作成し、洗濯物の片付け、床のモップがけ、調理などを行っている。その結果を毎月確認し、次の介護支援業務に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所契約時、面会時にご家族様より情報を収集し、これまでの暮らしを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な日課に添いつつ、一人ひとりの生活スタイルがあるため、行動ひとつひとつを本人に確認し、その日の心身状態を把握したうえで、自己決定や自立支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的また心身の状態に応じ適宜に計画の見直しを行い、1回/週、1回/月の会議時には利用者全員の確認事項を話し合っている。家族面会時や電話にて意向を伺い、本人と家族の意向をすり合わせ、サービス担当者会議には家族・本人・職員で話し合いを行い安定した生活を支援する。	介護計画については、各利用者ごとの担当者によるアセスメントを行い、その結果をまとめ、計画の原案を職員会議に提案、意見交換を行い、家族の同意を得て、計画を作成している。家族の意見等は、面会時や電話等で照会し、回答を得て計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのできることを見つけ、役割表を作成し本人の生きがいへと結びつけている。グループホーム会議等で評価を行い、気づきや工夫、評価を行い職員間で情報を共有している。役割表は介護計画へ連動し評価している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週案計画に立案できていない場合であっても、天候が良好で利用者の体調が良好であれば、施設周囲でのお花見会、外出、買い物ドライブ、特養(隣接)への面会等本人の思いを大切に支援している。又、家族の急な訪問や外出の依頼、所内の食事を一緒にとることも対応可能。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所への散歩や買い物等へ出かけ、近所の方々が声をかけて下さり、興奮して町へ出た場合でも、温かい言葉をかけていただき穏やかになることもある。又、銀行へ行きたい強い要望があった時は出向き、窓口の職員にやさしく説明をいただくと安心することもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医が協力病院であり、本人・ご家族のご希望で協力医を受診している。看取り対応時は協力医との連携を図り対応。通院介助は職員が対応しており、受診の都度家族へ電話連絡をしており、家族様も受診に同席することもある。	利用者全員のかかりつけ医が協力医療機関であり、職員の同行により、受診している。皮膚科、婦人科、精神科などの専門科は家族が同伴で受診しているが、依頼により職員が対応することがある。歯科は、町内の2診療所を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の変化を日誌へ記載するとともに、コミュニケーションを持ち、報告事項を確認し合っている。個々に応じた排便コントロールに関する相談を行いアドバイスをいただき、必要に応じて受診し医師に報告。その他、心身の変化を訪問看護師へ報告し早期発見早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院看護師へ施設での生活状況を報告し、本人・ご家族ともに安心して治療が受けられるように、又面会で様子を伺い、退院許可の連絡がきた際は早期に対応し、ご家族の協力をいただきながら病院との連携を図っている。退院時は細かな情報を収集し、医師から説明をいただくこともあり、退院後のフォローも大切と考える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時、重度化した場合や終末期の在り方について説明を行い、家族の意向を確認する。事業所のできる事と、できないことを説明し、話し合いを重ねながら、意向によっては、特養への申請を勧める。本人や家族の心情の変化を察し、情報共有しながら本人にとってよりよい終末期を考えている。H26.4月より看取りサービス対応可能。	重度化した場合は、看護師の指導・協力を得て、医師の指示により、対応することとしている。重度化した場合の対応は、入居時に家族に説明し、さらに看取り指針により同意書を得ているが、看取りの対応は無く、終末期には、改めて家族に意向を確認することとしている。医療、介護関連施設との連携のもと、家族の意向に添うように対応したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体の光栄荘施設内研修会の資料から抜粋し急変時の対応や介護時の観察項目などグループホーム会議時勉強会を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・災害時訓練は定期的に行っている。 28年9月、火災訓練、消火通報訓練を実施し、近隣の方々にも参加協力をいただいた。	火災、消火、避難訓練は年2回実施した。1回は消防署員の立会いで実施し、1回は夜間想定訓練を実施した。職員の消火器の使用訓練のほか、地域住民の協力を得て、避難誘導、見守りを依頼実施した。さらに、毎月自主的に、避難訓練を実施している。非常食は3食、ストーブ、ガスコンロ、電池などを備品として蓄えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議開催時、認知症高齢者の基礎的理解、尊厳の保持等の研修会を実施し、日常において適切な対応を実践している。	関係団体の研修会に職員を派遣し、復命研修会を開催し、職員に知識の習得と、対応に万全を期している。また、広報紙は家族に配布し、写真掲載は家族の同意を得ている。日常の会話など、親しみの中にも人格を尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、目・表情の変化や車いすからの立ち上がる行為によって、本人のその時の気持ちや要望が理解でき、それは職員間で共有できており、利用者それぞれの感情表出や自己決定ができています。常に利用者主体のケアが身につけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者の個々の意向を伺いながら、食事時間や食事内容、入浴、活動、その日の生活について臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の準備は家族、居室担当が準備しており、購入時は本人、家族の意向を伺い、希望に添った衣服を職員と一緒に買いに行くこともある。衣替え時は家族の協力をいただいたり、入浴後や着替え時ははどのような服が良いかを一緒に選び着用していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいかを伺い可能な限り希望に添い、畑から旬の野菜を収穫し下ごしらえを手伝っていただく。食卓に上がった際は畑で採れた事を紹介すると皆喜んで食べられ、食欲増進、会話が弾み楽しみながら食事ができる。テーブル拭き・下膳・食器洗いを職員と一緒にやっている。	食事メニューは、利用者の意向を取り入れ、季節の物や、畑やプランター栽培の野菜などを活用し、食事を提供している。管理栄養士の指導を得て、次回のメニューに反映させている。また、外食の寿司やラーメンの出前なども実施している。調理などへの利用者の参加は、下拵えや郷土のおやつなどの作成のほか、下膳、食器洗いも実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量・水分量・のチェックを行い、食事形態・好みや習慣も含めて個々に応じたメニューを提供。体重の増減を確認し、BMIの数値も考慮しながらマネジメントをしている。家族へもケアプラン説明時栄養面についても説明している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、毎食後、声かけ誘導を行い、最初は自力でできる所まで行っていただき、仕上げを介助させていただいている。週2回義歯洗浄。拒否された時は少し時間をおき、無理強いせず対応している。毎食口腔内を確認しているため、義歯の不具合は早期に発見し早急に歯科受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用者なく、尿失禁が多数みられる利用者様は、その人その人に応じた排泄パターンをつかみ、声かけ誘導にて失禁を減らし、成功体験を快に感じていただけるよう実践している。又、その方の排泄時の行動サインを見逃さず誘導している。	おむつを使用している方はなく、パット、リハビリパットで対応している。夜間は、ポータブルトイレを使用している利用者が多く、様子を見て、介護等の支援をしている。各利用者ごとの排泄パターンを把握し、それとない誘導をしている。失敗の時は、シャワーで対応し清潔保持をしている。言葉遣いや案内方法など、利用者の心情に配慮した対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールについては、食事内容や水分量、起床時のヨーグルトの提供で自然排便に心がけている。やむを得ずお薬で調整している方は排泄パターンを知り、情報を共有し支援している。また、訪問看護師や医師へ相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否することが多い方については、特に本人の気持ちに合わせてタイミングよくお誘いし楽しい雰囲気づくりに努め、生活歴を把握した内容の会話を意識する。又、入浴が生きがいの方は希望時対応・皮膚疾患の見られる方は多目に入浴対応するなど、個々に添った対応をしている。	月・火・木・金を入浴日とし、午前中を基本に週2回の入浴を楽しんでもらっている。希望によっては、午後に入浴する場合もある。気が向かない方には、話題を変えたり、気分転換や入浴日を変えて対応している。季節により、菖蒲、ばら、ゆず湯のほか、入浴剤を使用している。足の疾患がある利用者は、足湯を行い、薬を塗布している。異性介助は、特に問題なく対応がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は一度臥床し休む方、活動への参加が疲れて休む方、午睡をする方しない方、それぞれ個々に応じたサイクルで過ごしていただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の詳細を把握できるよう薬と一緒に袋に処方箋も入れている。受診時薬の変更があった場合は、職員全員が早急に把握できる場所に掲示し誤薬防止に努めている。また、血圧測定記録を持参し上申したり、安定剤の副作用の状況を訪問看護師へ相談後、医師へ上申している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を知り、その方の好きな事ややりがいのある仕事・活動を通し、喜びや満足度が得られるよう支援している。(畑仕事、踊り、歌、おやつづくりなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ながら、お墓参りや自宅への外出をされている。また、普段は行けないような場所へも本人や家族の意向を伺いながら、外出している。	散歩の希望者には、職員が対応している。季節により花見などのほか、観光地、お祭りなど、月1回はドライブを実施している。食材の買出し時や、利用者個人の買い物に職員が同行しているほか、畑、プランターでの作業、玄関ベンチでの日向ぼっこ、夕涼み、外食での寿司、家族の墓参など、外に出る機会を大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	お小遣いは施設で預かり、利用者さんより購入希望があった際は、一緒に買い物へ行ったり、担当職員が購入し準備している。できるだけお金は使いたくないと思っている方々であり、理容所は格安な所へ依頼するなどの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書きたい希望時は、職員がそばで書きたい内容について協力している。また電話をかけたい時や、職員が家族の声が必要と判断した際は、職員が番号を押して、そばで見守っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設周辺は静かな環境であり、ホールから玄関、外の景色が眺められ、花や野菜を見ながら行き交う人たちを感じている。天候の良い日は常時、玄関を解放し自由に出入りができ開放感あふれた空間であり、台所からの音や匂いは生活感があり、ご自分のテーブル席が落ち着く居場所であったり、ソファがリラックスできる方もいる。	広々としたフロアに、食事テーブル、ソファが配置され、それぞれ希望の場所で、くつろいでいる。南向きの天窓から明かりが射し、暖かい色調の室内には、利用者が作成した文化祭出展作品や、行事の写真が飾られている。植物も配置している。エアコンで空調、温度を管理し、暮らしやすい居住環境となっている。周辺の住宅地は、散策が出来る、地域住民の往来もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で会話したり、活動したりする場所をセッティングし、相性の合う方々と楽しい時間を過ごせるように支援している。独りになりたい時や一人で集中して行いたいことがあるときは、居室や本人の好きな場所を準備し真剣に取り組めるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一番は家族愛・家族の健康を願い案じている利用者様にとって、家族の写真を貼ることでいつもそばにいるという安心感につながっている。園児達にいただいたプレゼントなどを飾り大切な思い出を増やし、心地よい自分なりの空間をつくっている。	ベッド、タンス、クローゼット、洗面台が設置されている。夜間用のポータブルトイレが貸し出されている。空調や温度は、エアコンで適度に管理し、快適な空間となっている。室内は、個人の衣類のほか、家族写真、イベントの記録、手作りの作品が飾られている。テレビ端子は用意されているが、使用している方はいない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分のタンスの中へ物を自由に入れたいり出したりできるようにベッド脇に手すりを設置し安全に自立支援ができるようしている。また、入浴の際は、できる機能を活用して安全に入浴ができるようにしている。		